

忍冬文軒丸瓦



A. 横見廃寺の約200m西にあり、6世紀末頃の古墳と推定されます。全長13・1m、幅2・9m、高さ4・2mと、広島県最大級の横穴式石室を有し、巨石を積み重ねた規模の大ききから、畿内の

三原市歴史民俗資料館
☎ 0848-62-5595

📍 三原市円一町 2-3-2
🕒 9:30 ~ 17:00
休み/月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始
入館料/無料



三原の歴史が分かるように、時代順に資料が展示されています

A. 飛鳥時代後半(白鳳期)の県内最古の古代寺院跡が、本郷町下北方にある「横見廃寺跡」です。1978年に国史跡に指定されました。

Q. 国史跡に指定されている、県内最古の寺院跡について教えてください！

1971年に始まった発掘調査では、飛鳥時代の檜隈寺跡(奈良県)出土のいわゆる火炎文付単弁軒丸瓦の同范瓦や、法隆寺若草伽藍跡(奈良県)出土の忍冬文軒丸瓦によく似た文様の瓦など、さまざまな遺物が出土。「忍冬文軒丸瓦」は三原市歴史民俗資料館で展示されていますので、ぜひ見てください。

Q. 県史跡に指定されている梅木平古墳について知りたい。

A. 糸崎周辺の海は深く、船で貿易豪族と深い関係があった沼田地域の有力支配者の家族墓だと考えられています。巨大な石室は常時公開されています。

Q. どうして糸崎駅は、三原駅と尾道駅を比べて広いの？

A. 糸崎周辺の海は深く、船で貿易豪族と深い関係があった沼田地域の有力支配者の家族墓だと考えられています。巨大な石室は常時公開されています。

A. 糸崎周辺には「糸崎機関区」が置かれ、新幹線が開通するまでは、ほとんどの列車が停車する主要駅として活躍。このため、広い構内が必要となりました。また、山陽本線八本松駅と瀬野駅間にある急こう配の「瀬野八」を登るため、燃料である石炭や水を補給する駅としても、重要な役割を果たしました。

三原市歴史民俗資料館

かずゆき
福井万千さんに教わる

三原の歴史



日本考古学会会員。三原考古学研究所主宰。三原城研究会、みはら郷土文化研究会代表。三原市歴史民俗資料館スタッフ。



倭名類聚鈔の「柞原」部分。片仮名で「ミハラ」、漢字で「美波良」と読んでいる

Q. 「みはら」という地名はいつごろ登場するの？

A. 平安時代中期に醍醐天皇の皇女、勤子内親王が、源順に編纂させた日本最初の分類体漢和字書『倭(和)名類聚鈔』の中に見られます。三原市歴史民俗資料館に所蔵されている

る『倭名類聚鈔 巻八』の複製本を見ると、現在の三原市東部に当たる地域が「柞原郷」と記されています。

Q. 三原市は、昔は海だったって本当？

A. 鎌倉時代に小早川氏が関東からこの地に来た頃には、現在の沼田川下流域一带は本郷付近まで海水が入り込み、小島が点在する浅い海の状態だったと考えられています。本郷町に「高山城」を築いたとされる小早川茂平は、沼田川下流の遠浅の海や湿地帯の開発を始めました。「小早川家文書」などには、安直方



江戸時代初期から1965年までの干拓事業を記録した地図。「小学生の郷土史 田野浦村のQ&A」より

もっと知りたい
勉学の秋

この秋は「勉学の秋」を極めてみよう！もちろんテーマは「ミハラッセ」、三原市と世羅町だ。知っているようで知らない地元の話が満載。読み終わる頃には誰かに教えたくなるかも!?

ミハラッセの豆知識

歴史

だるま

ヒヨウモントドキ

梨

韋駄天

mihara
sewa